



---

## 検討し得る計画の方向性

---

令和4年1月12日

第3回 北空知4町地域公共交通活性化協議会資料



## 2. 調査結果概要

JR北海道-函館本線（普通電車運行便数：平日17便 / 日、休日17便 / 日）

※調査区間は深川駅から滝川駅まで

### 利用実態調査結果・OD調査結果

- ・ 1 便当たり利用者数は平日17.3人/便、休日12.9人/便
- ・ 最も利用者が多い便は、平日7:41深川駅発で69人/便
- ・ 調査区間中最も多く利用されている駅は、滝川駅
- ・ 利用目的としては、平日・休日ともに通学目的での利用が最も多い
- ・ 徒歩・自転車によるアクセスが最も多く、次いで自動車（送迎）によるアクセスが多い
- ・ JR函館本線（深川駅-滝川駅間）は、深川市-滝川市間での利用が最も多い

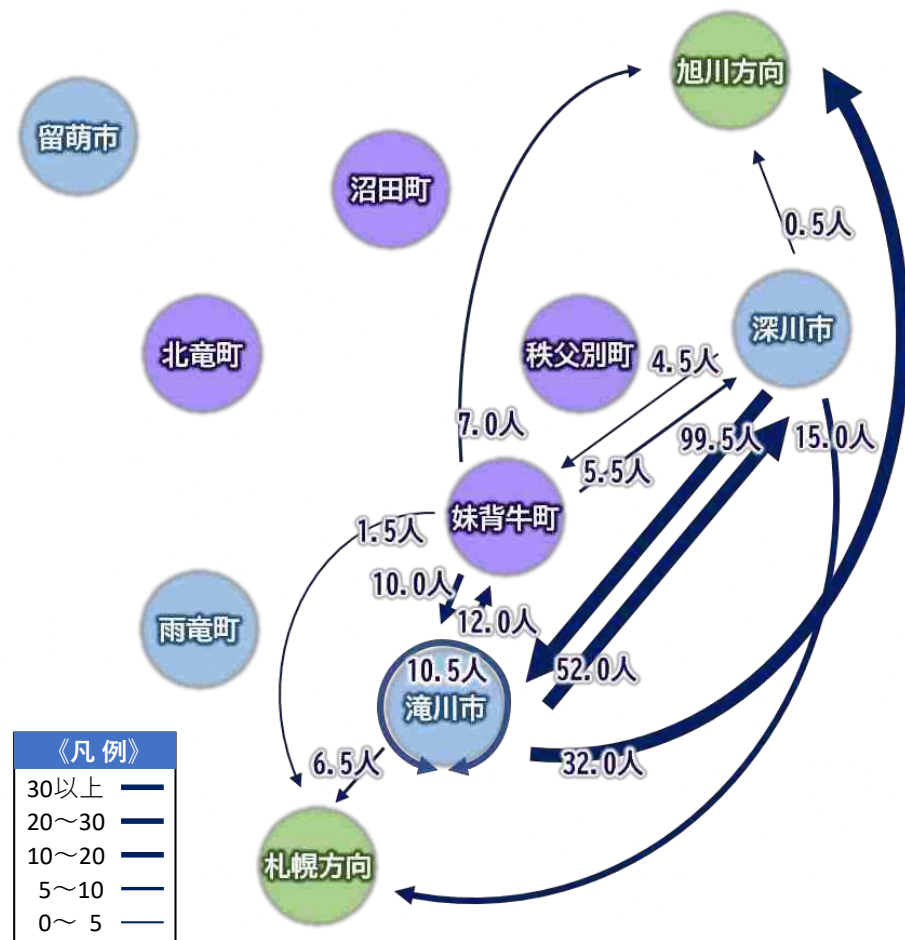
### 考察

- ・ 運賃及び運行時間帯については、現状維持を望む声が多い一方で、運行便数については増便を望む声が多い
- ・ 将来的な利用意向については、「使い続けたい」とする回答が7割程度である一方で、約2割は将来的に使わなくなると回答



### 検討し得る方向性

- ・ 現状維持



日平均のOD図

## 2. 調査結果概要

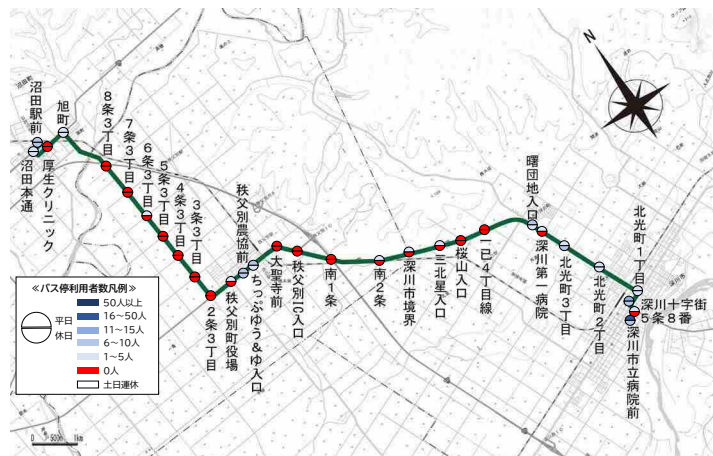
空知中央バス-沼田線（運行便数：平日10便 / 日、休日8便 / 日）

### 利用実態調査結果・OD調査結果

- ・ 1 便当たり利用者数は平日4.8人/便、休日4.0人/便
- ・ 最も利用者が多い便は、平日8:20沼田駅発で14人/便
- ・ 利用者の多くは、沼田町市街地もしくは秩父別町市街地からの乗車であり、各市街地間のバス停で、1日を通して0人のバス停が多く存在
- ・ 利用属性の多くは、生産年齢人口以上の一般利用
- ・ 通勤や通院、私用・その他などで利用
- ・ 沼田線の利用状況を整理すると、沼田町-深川市間及び秩父別町-深川市間の利用が主
- ・ 沼田町-秩父別町間の利用は比較的少ない
- ・ 沼田町-深川市間及び秩父別町-深川市間の利用は、8:20沼田駅発の便であり、JR留萌本線が運行していない時間帯

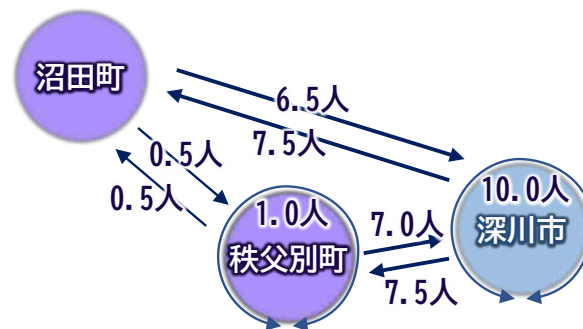
### 考察

- ・ 運行状況については、運賃及び運行時間帯は「このままで良い」とする回答が最も多い一方で、運行便数は「増えると良い」の回答が最も多い
- ・ 将来的な利用意向については、「使い続けたい」とする回答が平日で9割
- ・ 住民アンケート調査では、地域交通の維持・確保に向けて、利用実態に合わせた運行規模の適正化を図ることが特に重要と考えられていることから、こうした住民の意向を踏まえた検討が必要。
- ・ 現時点で地域間幹線補助の要件を満たしているが、今後下回ることも想定する必要がある。



### 検討し得る方向性

- ・ JR留萌本線存廃の方向性により検討（部分存続などの検討結果によって今後調整）
- ※現状維持にあたっての課題
- ・ 鉄道とバスが共存する持続的な地域交通の確保（鉄道とバスの維持に係る地域負担）



北竜町

《凡例》

30以上	——
20~30	——
10~20	——
5~10	——
0~5	——

妹背牛町

日平均のOD図

## 2. 調査結果概要

空知中央バス-北竜線（運行便数：平日10便 / 日、休日9便 / 日）

### 利用実態調査結果・OD調査結果

- ・ 1 便当たり利用者数は平日5.3人/便、休日3.3人/便
- ・ 最も利用者が多い便は、平日7:30北竜温泉発で13人/便
- ・ 利用者の多くは、北竜町市街地もしくは妹背牛町市街地からの乗車であり、各市街地間のバス停で、1日を通して0人のバス停が多く存在
- ・ 利用属性の多くは、生産年齢人口以上の一般利用であるが、全体の約3割は通学で利用
- ・ 通学や通勤、通院、私用・その他などで利用

### 考察

- ・ 運行状況については、運賃及び運行時間帯は「このままで良い」とする回答が最も多い一方で、運行便数は「増えると良い」の回答が最も多い
- ・ 将来的な利用意向については、「使い続けたい」とする回答が平日で6割（「使わない」とする回答で最も多い属性は「高校生」）
- ・ 北竜線の利用状況を整理すると、北竜町-深川市間及び妹背牛町-深川市間の利用が主
- ・ 北竜町-妹背牛町間の利用は比較的少ない
- ・ 北竜町-深川市間及び妹背牛町-深川市間の利用は、通学目的の利用者が主
- ・ 住民アンケート調査では、地域交通の維持・確保に向けて、利用実態に合わせた運行規模の適正化を図ることが特に重要と考えられていることから、こうした住民の意向を踏まえた検討が必要。

### 検討し得る方向性

- ・ 関係自治体で運行費を支援して運行を継続、又は、北竜温泉-妹背牛町市街地間で路線の短絡化の検討など
- ・ 滝川北竜線のアクセス交通（追分市街地での乗継）による滝川市や深川市への生活動線の確保の検討など
- ・ 深滝線（雨竜経由）及びJR函館本線との接続性を確保することで、運行費補助の圧縮を図るなど、北竜町地域公共交通計画（令和3年3月）との整合性を図る。

